

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Monensin sodium salt
コンポーネント名	
商品コード	BIG社 商品コード: 2237803
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	DEL1479V02 (2024/4/1)

## 2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)

## 化学品のGHS分類

## 健康有害性

急性毒性(経口) 区分2  
急性毒性(経皮) 区分3  
皮膚感作性 区分1B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(骨格筋、心臓)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(心臓、骨格筋、血液系)

## GHSラベル要素

## 絵表示



## 注意喚起語

## 危険有害性情報

危険  
H300 飲み込むと生命に危険  
H311 皮膚に接触すると有毒  
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
H370 臓器の障害  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

## 注意書き

## 安全対策

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)  
取扱い後は眼や手をよく洗うこと。(P264)

## 応急措置

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)  
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)  
皮膚に付着した場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。  
(P302+P312)  
皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。(P302+P352)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)  
気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。(P314)  
口をすすぐこと。(P330)  
皮膚刺激又は発しんが生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。  
(P333+P313)  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。  
(P361+P364)  
保管  
施錠して保管すること。(P405)  
廃棄  
内容物や容器を、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。  
(P501)

## 他の危険有害性

## 重要な徴候及び想定される非常

## 事態の概要

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	モネンシンナトリウム
CAS番号	22373-78-0
濃度又は濃度範囲	100%
化学式	C36H61NaO11
化審法官報公示番号	
安衛法官報公示番号	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

#### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。 水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合	皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 水で数分間注意深く洗うこと。
飲み込んだ場合	眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。 直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水。 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	火災によって刺激性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 低地から離れ、風上に留まる。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	眼、皮膚との接触、飲み込まないこと。 粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーを吸入しないこと。 粉じんを発生させないようにする。

接触回避  
衛生対策

「10. 安定性及び反応性」を参照。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく眼と手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

冷所、換気の良い場所で保管すること。  
容器を密閉して保管すること。  
施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度(産衛学会)

未設定

許容濃度(ACGIH)

未設定

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具

適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、保護面を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

固体(粉末)

色

白色

臭い

データなし

融点/凝固点

267~269°C

沸点又は初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び上限界/可燃  
限界

データなし

引火点

データなし

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水:1.61mg/L(25°C)(推定値)。水にほとんど溶けない。クロロホルム、メタノール、エタノールに可溶。

n-オクタノール/水分配係数  
(log値)

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び/又は相対密度

データなし

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性

強力な酸化剤で、可燃性物質や還元性物質と反応して火炎及び爆発の危険をもたらす。

化学的安定性

法規制に従った保管及び取扱いは安定と考えられる。

危険有害反応可能性

データなし

避けるべき条件

混触危険物質との接触。

混触危険物質

強酸化剤。

使用、保管、加熱の結果生じる

データなし

危険有害な分解生成物

その他

## 11. 有害性情報

急性毒性

経口

【分類根拠】

(1)～(6)より、区分2とした。

**【根拠データ】**

(1)ラットのLD50(菌糸体) = 雌:22mg/kg、雄:40mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(2)ラットのLD50(菌糸体) = 雌:24mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(3)ラットのLD50(菌糸体) = 雌:205.1mg/kg、雄:290.4mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(4)ラットのLD50(結晶) = 雌:238.0mg/kg、雄:318.0mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(5)ラットのLD50 = 21.7～50mg/kg(EU EMEA(2007))

(6)ラットのLD50 = 雌:86～130mg/kg、雄:340～860mg/kg(EU EFSA(2005))

**【参考データ等】**

(7)感受性は種間で大きく異なるが、試験に供した全ての動物の毒性徴候は類似しており、死亡、食欲不振、自発運動の低下、骨格筋の筋力低下、歩行失調、下痢及び体重増加抑制であった。総じて、雌は雄より感受性が高かった。毒性影響にモネンシンの形態(結晶又は菌糸体)による有意な違いはみられなかった(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(8)マウスのLD50(菌糸体) = 雄:70mg/kg、雌:96mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(9)マウスのLD50(菌糸体) = 雌:230.1mg/kg、雄:302.0mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(10)マウスのLD50(結晶) = 雌:330.0mg/kg、雄:368.0mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

(11)マウスのLD50(結晶) = 雄:350.0mg/kg(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

経皮

**【分類根拠】**

(1)より、区分3とした。

**【根拠データ】**

(1)ラットのLD50 = 雌:550mg/kg、雄:700mg/kg(EU EFSA(2005))

データなし

**【分類根拠】**

(1)より、区分に該当しないとした。

**【根拠データ】**

(1)原体及び20%調製物のウサギの皮膚刺激性試験で、刺激性はみられていない(EU EFSA(2005))。

**【参考データ等】**

(2)菌糸体モネンシン(モネンシン活性 13.4%、本物質として10.6mg)をウサギ(n=3)の皮膚に500mg/kgの用量で単回適用した試験で、1例に軽度の紅斑がみられた以外には刺激性はみられていない(EU EFSA(2004)、HSDB Acc.June(2020))。

(3)モネンシン顆粒(9.9%調製液)をウサギ(n=3)の皮膚に2000mgを24時間閉塞適用した試験で、皮膚には亀裂や硬化がみられ、正常に回復したが、1例が死亡した(EU EFSA(2004))。

吸入  
皮膚腐食性／刺激性

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

**【分類根拠】**

(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

**【根拠データ】**

(1)原体及び20%調製物のウサギの眼刺激性試験で、原体では刺激性はみられなかったが、20%調製物では急性の結膜浮腫及び軽度の結膜発赤がみられ、軽度刺激性と報告されている(EU EFSA(2005))。

(2)原体、50%、10%溶液のウサギの眼刺激性試験で、50%、10%溶液の刺激性はほとんどない或いは軽微で、原体では軽度の刺激性はみられたが、48時間後には回復した(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

**【参考データ等】**

呼吸器感作性  
皮膚感作性

(3) 菌糸体モネンシン(モネンシン活性 13.4%、本物質として10.6mg)を適用したウサギ(n=3)の眼刺激性試験で、重度の角膜混濁、虹彩の充血、結膜の炎症と浮腫が24時間以内に観察されたが、これらの反応は治癒することなく、2/3例が死亡した(EU EFSA(2004))。  
(4) 乾燥菌糸体モネンシン(59mg)を適用したウサギ(n=3)の眼刺激性試験で、角膜混濁、著しい虹彩炎、中等度の結膜炎が1時間から観察され、1/3例では7日後に穿孔を伴うブドウ腫、回復に伴い著しい血管新生がみられた(EU EFSA(2004)、JECFA FAS 61(2009)、食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015)、HSDB Acc.June(2020))。  
(5) 本物質を含む製剤(53mg)をウサギに適用した眼刺激性試験で、軽度の角膜混濁、著しい虹彩炎、中等度の結膜炎が適用1時間以内に観察され、適用2時間以内に明らか～重度の角膜混濁、重度の結膜炎が観察され、角膜混濁は回復しなかった(EU EFSA(2004)、JECFA FAS 61(2009)、食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015)、HSDB Acc.June(2020))。

データなし

【分類根拠】

(1)、(2)より、区分1Bとした。

【根拠データ】

(1) 本物質(モネンシンとして93.8%)のOECD TG 429に準拠したマウス局所リンパ節試験(LLNA)で、50mg/mL(5%)から陽性反応がみられている(EU EFSA(2004)、JECFA FAS 61(2009))。

(2) 本物質を含む製剤のOECD TG 429に準拠したマウス局所リンパ節試験(LLNA)で、陽性反応がみられている(EU EFSA(2004))。

【参考データ等】

(3) 原体及び20%調製物のモルモットの皮膚感作性試験(マキシマイゼーション法)で、共に感作性陰性と報告されている(EU EFSA(2005))。

(4) 菌糸体モネンシンのモルモットの皮膚感作性試験(改変ビューラー法)で、感作性は認められなかった(EU EFSA(2004)、JECFA FAS 61(2009)、食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015)、HSDB Acc.June(2020))。

生殖細胞変異原性

【分類根拠】

(1)、(2)より、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) in vivoでは、経口投与したマウスの小核試験の陰性の報告がある(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015)、JECFA FAS 61(2009)、EU EFSA(2005))。

(2) in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、遺伝子突然変異試験の陰性の報告がある(同上)。

発がん性

【分類根拠】

国内外の分類機関による既存分類はない。利用可能なヒトを対象とした報告はない。発がん性試験(1)、(2)及び本物質の遊離酸の発がん性試験(3)のいずれでも投与に関連した腫瘍発生率の増加はみられず、区分に該当しないとした。

【根拠データ】

(1) 雌雄のラットに2年間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験の、悪性及び良性腫瘍が対照群及び投与群に観察されたが、投与と腫瘍の種類及び重症度の間に関連はみられなかった(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(2) モネンシン(CAS:17090-79-8)に子宮内ばく露された雌雄ラットに本物質を2年間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験の、悪性及び良性腫瘍の発生時期及び罹患率には、投与群と対照群の間で違いはみられず、発がん性は認められなかった(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(3) 雌雄のマウスにモネンシン(CAS:17090-79-8:菌糸体)を2年間混餌投与した慢性毒性/発がん性併合試験では、発がん性は認められなかった(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

生殖毒性

【分類根拠】

本物質のデータ(1)～(4)、本物質の遊離酸のデータ(5)、(6)を用いて分類した。(1)の本物質によるラットの2世代繁殖試験の、親動物毒性がみられる用量で出生時の同腹児数の低値等がみられたが、(5)、(6)の菌系体のモネンシン、結晶モネンシンによるラットの3世代繁殖試験で繁殖影響がみられていないことから、この影響は否定されると考えられる。また、(2)～(4)より胎児の発生に対する影響はないと考えられる。したがって、区分に該当しないとされた。

#### 【根拠データ】

(1)ラットに混餌投与した2世代繁殖試験では、親動物毒性(体重増加の抑制、摂餌量低下、雌で授乳中の削瘦及び円背位)がみられる用量(12.5mg/kg/day)で、出生時の同腹児数及び出生児の体重の低値がみられ、児の体重増加量にも影響がみられた(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(2)雌ラットの育成期、妊娠0～20日に混餌投与した発生毒性試験の、影響はみられていない(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書

(3)雌ウサギの妊娠6～18日に強制経口投与した発生毒性試験の、影響はみられていない(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(4)雌ウサギの妊娠6～28日に強制経口投与した発生毒性試験の、母動物毒性(体重減少、一般状態の悪化、死亡1例、切迫屠殺1例、約半数の母動物で流産)がみられた用量(3mg/kg/day)では胎児死亡数の増加がみられた。この用量は、母動物への毒性が高かったことから発生への影響を検討するには適当でないと結論付けられた。母動物毒性がみられない用量(0.1、0.3mg/kg/day)では、胎児に対する影響はみられていない(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(5)菌系体のモネンシン(CAS: 17090-79-8)をラットに混餌投与(0、1.6、2.5、4mg/kg/day)した3世代繁殖試験では、全投与群の全世代の体重増加量が減少したが、生殖影響、胚毒性、催奇形性はみられていない(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(6)結晶モネンシンをラットに混餌投与した3世代繁殖試験では、最高用量(1.43～2.3mg/kg/day)まで変化は報告されず、催奇形性もみられていない(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))

#### 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 【分類根拠】

(1)、(2)より、区分1(骨格筋、心臓)とした。腎臓への影響は横紋筋融解に伴う二次的影響によるものと考えられるため、不採用とした。

#### 【根拠データ】

(1)17歳の少年が本物質(用量不明)と16歳の少年がモネンシン(CAS 17090-79-8)(約500mg)を摂取した例の2例が報告されている。両症例の初期症状は、吐き気、食欲不振、腹部の痛み等がみられ、さらに、下肢の筋力低下及び激痛、黒褐色の尿、白血球増多症、赤血球沈降速度の亢進がみられた。両症例共に、本物質による横紋筋融解症が生じて急性腎不全が引き起こされ、1例では心不全が生じた。ヒトの本物質の過剰摂取の主な標的は骨格筋及び心筋と考えられたとの記載がある(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

(2)単回経口投与試験の、ラット、マウス、イヌ、サルなどの動物種間で感受性は大きく異なるが、試験に供した全ての動物の毒性徴候は類似しており、死亡、食欲不振、自発運動の低下、骨格筋の筋力低下、歩行失調、下痢及び体重増加抑制であった。雌は雄より感受性が高かった。毒性影響にモネンシンの形態(結晶又は菌系体)による有意な違いはみられなかった(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015)、EU EMEA(2007))。なお、経口投与のラット、マウスの最小のLD50値はラットで22～40mg/kg、マウスで70～96mg/kgであり(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))、上記の症状は区分1の用量範囲で生じるものと考えられた。

#### 【参考データ等】

(3)17歳の男性がモネンシンの複合製剤(プレミックス)を故意に摂取した後に、腎不全を伴う急性横紋筋融解症で死亡した(EU EMEA(2007))。

(4)モネンシンを摂取した患者は、重篤な横紋筋融解症となり、さらに急性腎不全や心不全を併発し、死亡した(HSDB Acc.June(2020))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)【分類根拠】

(1)～(4)より、区分1(心臓、骨格筋、血液系)とした。

【根拠データ】

- (1) マウスに本物質(菌糸体)を3ヵ月間混餌投与した結果、5.6mg/kg/day(区分1)の雄1例で心筋線維の軽度のび漫性空胞化が、5.6mg/kg/day(区分1)以上の雌で白血球数減少が、11.2mg/kg/day(区分2)の雄で白血球数及びリンパ球百分率の低下、好中球の増加が、22.5mg/kg/day(区分2)以上の雌雄で赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリット値の低下、雄で血清CPKの上昇が、45mg/kg/day(区分2)の雌雄(雄8例、雌2例)で心筋線維の軽度のび漫性空胞化、雌で血清CPKの上昇がみられた(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。
- (2) ラットに本物質(菌糸体)を90日間混餌投与した結果、500ppm(39～47mg/kg/day、区分2)の雌雄で死亡(雄40%、雌80%)、摂餌量、食餌効率の低下、骨格筋の筋炎、び漫性的変性及び組織球の浸潤を伴う心筋の変化、横隔膜筋線維の変性が、雄でヘマトクリット値、白血球数の減少がみられた(同群の雌については生存数が少なく統計解析を行えず)(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。
- (3) イヌに本物質(菌糸体)を90日間経口投与した結果、15mg/kg/day(区分2)以上の雄でと殺及び死亡(15mg/kg/day群で1例と殺、50mg/kg/day群で2例死亡、死亡例で筋線維の変性、マクロファージの浸潤及び内臓のうっ血を伴った心筋障害)、嘔吐、体重低下、筋力低下、運動失調、不整脈、痙攣及び散瞳、筋線維のび漫性変性或組織球の浸潤等の横紋筋の変化等が、50mg/kg/day(区分2)の雌で筋線維のび漫性変性或組織球の浸潤等の横紋筋の変化がみられた(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。
- (4) イヌに本物質を13週間混餌投与した結果、83ppm(2.1mg/kg/day、区分1)以上の雌雄で筋変性の所見が、167ppm(4.2mg/kg/day、区分1)の雌で投与11日後に活動低下(投与18日後まで投与を中止した結果、回復)、250ppm(6.3mg/kg/day、区分1)の雌雄で活動低下及び運動失調がみられた(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。

【参考データ等】

- (5) ラットに52週間混餌投与した結果、1.36mg/kg/dayの雌で肝細胞の空胞化(リポ蛋白の蓄積)が、4.59mg/kg/dayの雌1例で死亡がみられたとの報告がある(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。
  - (6) 本物質(結晶)の2件のラット2年間慢性毒性/発がん性併合試験の結果、一過性の体重減少を除いては投与による影響はみられなかったと報告されている(食安委 動物用医薬品・飼料添加物評価書(2015))。
- データなし

誤えん有害性

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に危険が及ばないように十分注意すること。
汚染容器及び包装	関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	3462
Proper Shipping Name	TOXINS EXTRACTED FROM LIVING SOURCES, SOLID, N.O.S.

Class	6.1
Sub Risk	
Packing Group	II
Marine Pollutant	Not Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	3462
Proper Shipping Name	TOXINS EXTRACTED FROM LIVING SOURCES, SOLID, N.O.S.
Class	6.1
Sub Risk	
Packing Group	II
国内規制	
陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3462
品名	トキシン類(固体)(生体から抽出されたもの)(他に品名が明示されているものを除く。)
国連分類	6.1
副次危険	
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3462
品名	トキシン類(固体)(生体から抽出されたもの)(他に品名が明示されているものを除く。)
国連分類	6.1
副次危険	
等級	II
特別の安全対策	
緊急時応急措置指針番号	153

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	劇物(指定令第2条)【100の18 モネンシン、その塩類及びこれらのいずれかを含有する製剤】 モネンシンナトリウム 含製剤。8%以下を含有するものを除く
労働安全衛生法	皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)【モネンシンナトリウム】 モネンシンナトリウム 化学物質又は化学物質を含有する製剤(安衛則第594条の2)。含有量が1重量%未満のものを除く。特化則等の特別規則において、皮膚又は眼の障害等を防止するために不浸透性の保護衣等の使用が義務付けられているものを除く。
航空法	毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)【【国連番号】3462 トキシン類(固体)(生体から抽出されたもの)】 他に品名が明示されているものを除く
船舶安全法	毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)【【国連番号】3462 トキシン類(固体)(生体から抽出されたもの)】



生体から抽出したもの、ウイルスをうつしやすい物質を保有する生体から抽出されたもの及びウイルスをうつしやすい物質に含有されるものを除く、他に品名が明示されているものを除く

---

<b>16. その他の情報</b>	
参考文献	経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース ezCRIC 安全衛生情報センター GHS対応モデルSDS 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
その他	◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。 ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。 ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。 ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。